ブース循環水環境対応型

溶剤塗料用キラー剤

WWシリーズ

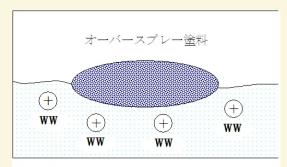


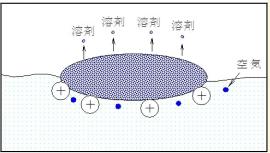
1. 薬剤の特徴

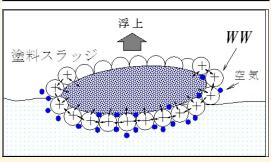
- ●優れた塗料不粘着化性
- →高い不粘着化性能で塗料カスの粘性を大幅に低減させます。
- ●消臭性能(腐敗臭発生抑止効果)
- →強力な消臭性能で作業環境を良くします。
- ●塗料スラッジの高い脱水性
- →含水率が低く、廃棄スラッジ重量が低減します。

2. 不粘着化性

(その1:メカニズム)







①塗料にキラー剤(WW)が接近します。

②キラー剤が塗料に付着し、塗料から溶剤分が揮発します。

③キラー剤と共に空 気も一緒に抱き込 み、不粘着化した塗 料が浮上します。

浮上タイプ







2. 不粘着化性

(その2:実績例自動車バンパーライン/クリアゾーン)

ケミコートキラー剤使用時



ブース水路 不粘着化性良好 塗料スラッジ少量



塗料スラッジ 不粘着化性良好 手で崩れる程度のカタマリ

他社キラー剤使用時



ブース水路 不粘着化性不良 塗料スラッジ多量付着



塗料スラッジ 不粘着化性不良 ノコギリで切って除去作業

2. 不粘着化及び浮上性

(その2:実績例自動車バンパーライン/クリアゾーン)



塗料粕浮上状態 (回収装置)

キラ一剤:浮上タイプ



不粘着化性、浮上性良好

3. 消臭効果

(その1:官能試験及び菌数)

官能試験による消臭効果の判定

官能試験(人の嗅覚)による臭気判定結果

評価基準 0:無臭 1:微臭 2:感知可能な臭気

3:中程度の臭気 4:強い臭気 5:強烈な臭気

菌数測定による消臭効果の判定

下記はウォーターサンプラーを用い、消臭効果のある塗料 不粘着化剤の添加有無別で循環水中の菌数を測定した結果 です。



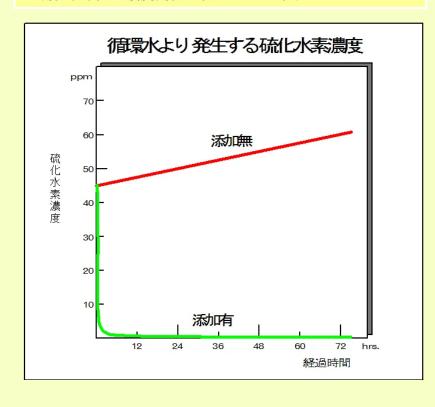
菌(コロニー)数300以上 菌(コロニー)数30以下

3. 消臭効果

(その2:硫化水素濃度と比較データー)

濃度測定による消臭効果の判定

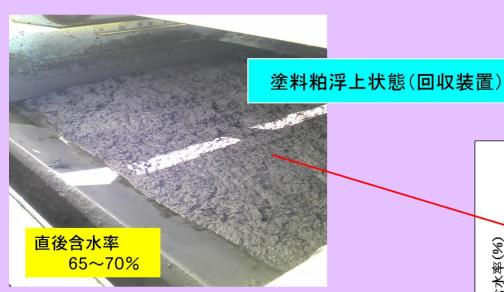
下記グラフは上塗り塗装循環水(硫化水素発生濃度 45ppm) と同循環水に消臭効果のある塗料不粘着化剤を添加した時 の硫化水素発生濃度変化を示したものです。



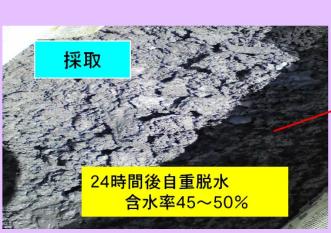
他社比較実績

分析項目		<u>他社</u> ₩W添加後 ボデーライン		弊社目標基準値	
pΗ		6.53	7.02	7.0~8.0	
伝導度(mS/cm)		0.369	0.208	2.0以下	
COD(ppm)		670	377	2000ppm以下	
菌数		280	18以下	30以下	
塗料滓不粘着性		5cm以下	1cm以下	1cm以下	
塗料滓含水率		68%	47%	50%以下	
-					
	プロピオン酸	44.5	12.0	20以下	
臭気ppm	n-酪酸	52.5	15.3		
※ 2	n-吉草酸	N.D.	N.D.	2010 P	
i-吉草酸		39.5	10.2		
 参考 類似臭気 プロピオン酸 刺激的な酸っぱいにおい n-酪酸 汗くさいにおい n-吉草酸 むれた靴下のようなにおい i-吉草酸 ″ ″ 					

4. 脱水性 (実績例)



キラ一剤:浮上タイプ



不粘着化、脱水性良(塊状)

5. 薬剤添加比率

使用薬剤及び添加割合(推奨薬剤組み合わせ例)

薬剤タイプ		No.WW-38	No.WW-89	No.WW-28	No.WW-72	No.K-780
薬剤組合せ		分散or浮上 (弱酸系)	分散or浮上 (クレイ系)	分散 (アルカリ系)	浮上剤 (アルカリ系)	ポリマー剤
3液	浮上	50%	_	40%	_	10%
	分散	60%	_	40%	_	_
2液	浮上	_	90%	_	_	10%
1375	分散	_	100%	100%	_	_
1液	浮上	_	_	_	100%	_

○塗料スラッジの回収方法により薬剤割合を設定します。 回収方式により薬剤1液~3液使用の場合があります。

6. 薬剤使用量

(①薬剤建浴量トータル)

循環水ブース保有水量に対して 合計 0.05~0.1%

薬剤種合計で0.05~0.1%です。

尚、他社薬剤使用の継ぎ足しの場合、専用添加(消臭効果)を使用 する場合があります。

注)添加剤初期投入は既に腐敗した循環水に継ぎ足し使用の場合で、且つ建浴時のみです。

更新でのスタートの場合は添加剤の投入は必要ありません。

6. 薬剤使用量

(②薬剤添加量トータル)

オーバースプレー塗料量 (希釈塗料量+洗浄シンナー量)の10~20%

Ex)希釈塗料量100kg/日である塗装ブースの場合 オーバースプレー50%とすると、

 $100 \text{kg} \times 50\% \times 0.1 \sim 0.2$ (係数) = **5~10 kg/日**

7. 適用塗料

		料 品 種	Ē	適用性
合成樹脂系	溶剤系	アルキッド樹脂系	ワニス・エナメル	
			調合ペイント	
			錆止めペイント	
		アミノアルキド樹脂系		
		ビニル樹脂系		
		アクリル樹脂系	常温乾燥型	
			焼付乾燥型	
		エポキシ樹脂系	タールエポキシ型	
			ワニス・エナメル	
		ウレタン樹脂系	一液型	
			多液型	
		不飽和ポリエステル樹脂系		

8. 効果 (メリット)

ケミコート キラー剤効果

不粘着化	メンテナンス性向上		
	メンテナンス頻度の低減=コスト低減		
浮上性	塗料スラッジ回収性向上		
	メンテナンス頻度の低減 = 排水処理負荷低減(更新期間延長)		
消臭性	作業環境の向上		
	近隣への配慮		
脱水性	産業廃棄物処理量の低減=コスト低減		
	リサイクル処理時等の感想燃費削減		